

令和三年度別府市小・中学生「人権作文」入賞作品  
別府市人権問題啓発推進協議会長賞  
みんないっしょ

別府市立南立石小学校三年 渡邊 明日斗

ぼくは三さいの時、かいだんの七だん目からころげ落ちて、足をねんざしてしまいました。そして、ほいく園を三日休みました。そのころのぼくの家は、五かいだてでエレベーターのないマンションでした。ぼくがすんでいたのは四かいです。かいだんしかないので、いたくてもがまんしながらゆっくり歩くのはつらかったです。びょういんや買い物など外に出かける時は、おじいちゃんが車いすをトランクから出してくれて、いつもつかっていました。

お店に行く時、いつもはPマークの場所にとめてなかったのに、ねんざしているき間だけはとめていたので、それがとてもふしぎでした。さらに、Pマークのちゅう車場は、ほかのちゅう車場よりちよつと広くなっているところもふしぎでした。ぼくは、

「どうしてほかのちゅう車場より広いの。」  
と、お母さんに聞いてみました。すると、

「車いすは横はばが広いから、せん用の場所がひつようなんだよ。」  
とおしえてくれました。

たしかに、車いすを出す時、ドアを大きく開けてもらうひつようがありました。それに、車いすでい動するときにはちよつとうでがきつくなつたので、入口の近くにちゅう車場があるのも、とてもたすかりました。三年生になって、学校でバリアフリーについてべんきようすることがありました。バリアフリーとは、人けんをまもるためのくふうで、しようがいのある人もない人もびょうどうに自由にくらせるくふうのことです。

ぼくが見つけたPマークのほかにも、目が見えにくい人が安全に歩け

るように点字ブロックが道についていたり、具合の悪い人や車いすの人がトイレにうつる時つかまることができるよう、トイレの中に手すりやひじょうボタンがついていたりすることが分かりました。

ぼくはたくさんのバリアフリーを知って、もつともつと町をくらしやすくするくふうがふえるといいな、と思いました。そして、今あるくふうについてもちゃんと使えるようにみんなで大切にしていきたいと思いました。たとえば、ぼくがけいけんしたように車いすにのっている人が、ちゃんとPマークのちゆう車場がつかえるように空けておくことや、点字ブロックの上をきれいに何もおかずしておくことなど、みんなが思いやりをもってすぐらせるようにしていきたいと思います。